

父が牛飼いになって、
もうすぐ50年になります。
牛飼いになる前、
父は医学部の学生でした。

父が医者ではなく、
牛飼いになったのは、
自衛隊とたたかうためでした。

拳銃・縮射場
射
至近距離
射場



日本原

牛と人の大地

ナレーション：内藤陽 監督・撮影：黒部俊介
編集：秦岳志 整音：川上拓也 制作：黒部麻子 製作：黒べこ企画室 配給：東風
2022年/110分/日本/ドキュメンタリー ©2022 Kurobeko Kikakushitsu

www.nihonbara-hidesan.com



岡山県奈義町にひろがる陸上自衛隊「日本原演習場」で
牛の放牧を夢見て生きる内藤秀之さん一家の物語

1960年代の終わり、 岡山大学の医学生だったヒデさんは、 なぜ牛飼いになったのか？



なごちよう

岡山県北部の山間の町、奈義町。人口6,000人のこの町に陸上自衛隊「日本原演習場」がある。日露戦争後に旧陸軍が村々を強制買収して設置、占領軍に接収されたのち自衛隊に引き継がれ、今日に至る。奈義町は自衛隊との「共存共栄」を謳ってきた。日本原では昔から地元住民が山に入って土地を共同利用する「入会」が行なわれ、演習場内の耕作権などが防衛省から認められている。しかし、いまや場内で耕作しているのは本作の主人公・内藤秀之さん一家だけとなった。「ヒデさん」と親しまれる内藤さんは50年にわたり牛を飼い、田畑を耕してきた。彼を知る人は言う。

「ヒデさんは医者にならずに婿入りして牛飼いになったんよ」



政治の季節と青春のその後で
いま私たちが生きている時代を
ユニークな視点と映画言語で映し出す



監督は、日本映画学校を卒業したものの映画の夢を諦めかけていた黒部俊介。東京から移住した岡んで偶然ヒデさんと出会った黒部はビデオカメラをたずさえて日本原に通い続けた。コモンズと占領。安保法制下の米軍と自衛隊。土地利用規制法が孕む危険。改憲が具体化していくなか、“国防”の名のもとで私たちが手放しはじめているものは何か。映画は、ヒデさんの息子の陽さんによるナレーションに導かれて、ゆらゆらと歩きはじめる。

こういう作品こそ、万難排してスクリーンでご堪能ください！



www.nihonbara-hidesan.com

@nihonbara_movie

fb.com/nihonbara.hidesan



『日本原 牛と人の大地』応援団募集中！

チラシの配布やポスター掲出などご協力いただける応援団を募集しています。詳しくは配給・東風（とうふう）までお問い合わせください。
※ 東風（とうふう）E-mail: info@tongpoo-films.jp | TEL: 03-5919-1542（平日 11時～18時）| FAX: 03-5919-1543

9/17(土)より公開

東京 ポレポレ東中野
03-3371-0088

9/17(土)より公開

大阪 第七藝術劇場
06-6302-2073

9/24(土)より公開

愛知 名古屋シネマテーク
052-733-3959

10/7(金)より公開

京都 シネマ
075-353-4723

10/7(金)より公開

岡山 シネマ・クレール
086-231-0019

近日公開

兵庫 元町映画館
078-366-2636

近日公開

広島 横川シネマ
082-231-1001

近日公開

神奈川 横浜シネマ・ジャック&ベティ
045-243-9800

ほか、全国順次公開！！
最新の全国公開劇場など詳細は
映画『日本原 牛と人の大地』
公式サイトをご確認ください。



全国共通特別鑑賞券 ¥1,300(税込)発売中